

原水禁運動、政党との関係、分裂、共同の経緯			
年(1日は休日付の場合も)	事項	出典	
1954/3/1	ビキニ環礁水爆実験, 多数の漁船が被爆		
1961/8/1	原水禁7回大会は、「最初に実験を開始する政府は平和の敵、人道の敵」と決議		
1961/8/30	ソ連が核実験を再開		
1962/8/4	第8回大会、2日目(5日)にソ連核実験、抗議するかどうかで大会は混乱、多数によって抗議しないことになったため、社会党・総評・日青協・地婦連など13団体が退場、大会は宣言・勧告を報告するにとどめ、いっさい決議しないまま流会	原水禁:「運動内部の混乱」2010年1月1日	http://
1962/10/1	「ソ連が防衛のための核実験をおこなうことは当然」「前衛」上田論文		
1963/2/21	「原水協担当常任理事会」が「2・21声明」:「いかなる国の原水爆にも反対」	橋本誠一 原水爆禁止運動と日本社会党	http://
1963/2/28	全国常任理事会、一部理事が「2・21声明」のなかの「あらゆる国の核実験に反対する」部分に反対、会議がまとまらず、31ビキニデー統一開催不能に		http://
1963/8/4	第9回原水爆禁止世界大会 社会党・総評系「いかなる国の核実験にも反対」のスローガン、部分的核実験禁止条約の支持を要求(wiki) 大会流会	浅井基文氏の記述および資料	http://
1965/2/1	原水爆禁止日本国民会議(原水禁)結成		
1977/8/6	世界大会が統一開催, 年内組織統一の合意		
1982/3/1	広島で30万人集会(国連軍縮総会向け), 5月に東京で40万, 秋に大阪で50万。	富塚論文	
1983年	平和行進が原水協中心から世界大会準備委主催へ	西谷豊、月刊社会党 1984-10	
1984/3/30	84年度・世界大会準備委員会を結成. 反トマホーク行動申し合わせ	西谷豊	
1984/4/1*	準備委で「団体旗自粛」合意: 平和行進で、吉田嘉清原水協代表理事、森賢一平和委員会事務局長は統一労組懇旗の自粛を受け入れ		
1984/5/1	核軍縮を求める22人委員会		
1984/5/17	共産党中央委幹部会「原水協の一部にも運動の発展と真の統一の方向と矛盾する誤りや否定的傾向がある」	西谷豊	
1984/5/18	平和行進, 東京を出発	西谷豊	
1984/5/20	赤旗論文「原水爆禁止運動の根本問題-いまなぜ歴史的説明が必要か」		
1984/5/末	平和委など「団体旗自粛」合意撤回を通告	西谷豊	
1984/5/末	準備委運営委員会で原水協・平和委代表が反トマホーク集会を準備委主催で開くことに反対	西谷豊	
1984/6/16	「市民団体の見解」が通告による破棄を非難	西谷豊	
1984/6/29	原水協全国理事会開催、吉田嘉清氏を解任		
1984年7月?	草野、吉田の両氏が解任を認めず、準備委に出席	西谷豊	
1984/8/1	原水禁世界大会国際会議開幕. 草野、吉田の両氏が個人として参加. 原水協は退場を要求. 開会遅れる.	西谷豊	

1984/8/2	原水爆禁止世界大会国際会議 中国が20年ぶり正式参加。統一開催だが原水禁国民会議、総評系代表は大半欠席。アピール起草委員会も紛糾。	中国新聞サイトの記録 ヒロシマの記録1985 8月	http:
1984/8/3	東京宣言		
1985年	この年まで統一大会，以降は別々開催		